

平成30年度 大阪市立住吉第一中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理 科	国語A	国語B	数学A	数学B	理 科
3 年	学校	96	77	58	60	42	68	1.3	1.9	3.6	12.1	3.3
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

平成30年度 大阪市立住吉第一中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

〔国語〕

平均正答率は国語Aは全国平均を上回っているが、国語Bは大阪市平均と同値であった。文章の読解力と記述式で解答することに課題がある。生徒質問紙「1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」への回答状況から、学校全体で読書活動の推進をさらに進めることが、さらなる学力向上にも繋がると考えられる。

〔数学〕

平均正答率が、数学A,Bともに大阪市平均を2, 3ポイント下回った。平均無回答率の高さや生徒質問紙での数学が「好き」「大切だ」「授業がよくわかる」などの回答状況は全国平均を上回っているが、「諦めずに考える」「公式の根拠を理解している」などの回答状況は全国平均を大きく下回ることから、より深く、粘り強く考える力の育成や、知的好奇心へのアプローチ等が必要である。

〔理科〕

平均正答率は全国平均を約2ポイント上回った。授業では、タブレット端末や電子黒板などICT関連の活用を積極的に行い、実験による実証を数多く行うなど、生徒のやる気、興味を引き付ける授業を展開できたことが結果に結びついたと考えられる。

【今後に向けて】

○思ったことや考えたことを表現する力を培うため、言語活動の充実をはかる授業改善、指導力向上に見受けて、全教職員で研修を進める。

○生徒による発表、討議、レポート作成、ノート記述などの言語活動を、国語科のみならず各教科、総合的な学習の時間等において取り組んでく。

○習熟度別少人数授業については一定の成果がでていると考えられるので、今後も継続して実践すると同時に、さらにきめ細やかな授業改善に取り組む。

○授業においては、さらに主体的・対話的な深い学びの授業を引き続き継続していく。